まちづくりコラム

笠間稲荷門前通りの地域主体のまちづくり

～ 笠間朱色のまちづくり ～

株式会社アルメックＶＰＩ執行役員　認定ＮＰＯ法人日本都市計画家協会理事　内　山　　征

■地域主体のまちづくりとは？

近年、エリアマネジメントや小規模多機能自治など、住民団体や企業、商店街、ＮＰＯ等が主体となってまちづくりを進める活動が増えています。このような地域主体のまちづくりは、地域が主体性をもって進めるものであり、これまで行われてきた行政の策定する計画や事業への住民参加と異なるものです。これを推進する行政機関は、特性を知って推進する必要があると考えます。

■笠間稲荷門前通りと自分の関わり

私は笠間市出身のまちづくりコンサルタントで、普段は東京に住み、地元笠間での自分のまちづくり活動に取り組んでいました。そのような中、地域の方から誘われて、笠間稲荷門前通りの道路整備に関する住民会議の場に参加することになり、その後、業務として地域主体のまちづくりのアドバイザーを担うこととなり、現在に至っています。

今回は、笠間稲荷門前通りの地域主体のまちづくりについて報告します。

■まちづくりのきっかけ

笠間稲荷門前通りは、それまでも観光客が減り、空き店舗が増える状況でしたが、東日本大震災をきっかけにより顕著になりました。

笠間市は通りの活性化のために、地域の意見を反映した道路整備を行うこととし、ワークショップを重ね、歩行者優先の道路を設計・整備を行いました。

整備前	整備後
幅員10ｍ	幅員10ｍ
国道	市道（国道を他の道路へ付替）
都市計画道路（2ｍ拡幅予定）	都市計画道路廃止
歩道1.5ｍ×両側	歩道2.5ｍ×両側
車道7ｍ　センタライン有り	車道5ｍ　センタライン無し

道路の設計ができ整備に入る段階で、商店主、住民等が主体となり、まちの活性化に取り組むこととなりました。

■まちづくり活動

道路整備の住民参加組織として結成された「笠間のまちと通りのこれからをみんなで考える会（以下、かさまち考）」を継続し、地域主体のまちづくりの母体としました。

全体会議でまちづくりの提案を話し合い、幹事会である「かさまち考委員会」が、具体策を検討し、実践していくという体制です。

トイレマップの作成・配布からはじめ、徐々に、活動内容を拡充していきました。ボンネットバスを借りてきて、笠間芸術の森公園に集まる観光客を送迎し、門前通りで開催しているレトロ商店街を楽しんでもらうことや、空き店舗を活用した交流サロン、酒蔵での定期的なビアガーデン、通りでの蕎麦栽培などの様々な活動を進めたことにより、地域の結束力と賑わいの兆しが見えてきました。

＜ビアガーデンの様子＞

＜通りでの蕎麦栽培＞

＜レトロ商店街のチラシ＞

■笠間朱色の街並みづくり

徐々に活動が進む中で、かさまち考の中から「道路が整備されるので街並みを整えるべき」という意見が挙がりました。ただし、門前通り沿道の建物の形状は多様で統一できるものではありません。そこで、地域のシンボルである笠間稲荷神社の拝殿の色を「笠間朱色」と名づけ、この色を使って街並みづくりをするプランが決まりました。

全てを朱色で塗ってしまうと取り返しのつかないことになる可能性があります。そこで、かさまち考委員会が笠間朱色の機材を作成し、並べてみる社会実験を行い、店主アンケート等を通じて、落ち着きどころを確認したうえで本格実施に進みました。

公的な空間をみんなで塗り、高齢の店主のためには若手で笠間朱色塗り隊を結成し手伝い、銀行も協力して、信号柱や標識柱も笠間朱色に塗られました。また、店舗では笠間朱色を使った商品開発が流行りました。このように笠間朱色は多様な主体が関わるムーブメントに育ちました。

＜イメージパース＞

＜笠間朱色の信号柱＞

＜着色作業＞

この笠間朱色のまちづくりをルール化したいという声があがり、かさまち考が主体となり街並みづくりガイドラインを策定しました。さらに、法的なルールにしたいとう要望を実現するために、笠間市は地区計画を定めました。

■空き店舗対策

次に、空き店舗を埋めたいという意見に対して、かさまち考委員会が主体となり、店舗オーナーへ掛け合い、借りやすい条件の設定、公表を行い、半年で空き店舗を埋めることに成功しました。現在も、この通りには空き店舗はありません。

＜空き店舗対策で出店した新規店舗＞

■その後のまちづくり

上記の活動は、平成25年から5年間の活動です。その後、私の業務はなくなり、任意のアドバイザーとしてかかわっていますが、芝生広場で行う映画祭、アニソンＤＪを招聘したイベントなど活動を増やしながら、地域主体のまちづくりを続けています。

かさまち考は平成30年には「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」を受け、商店街は令和元年度には経済産業省から「はばたく商店街30選」に選ばれました。

■まちづくりの成果

笠間稲荷門前通りでは、この5年間の活動で、来街者が増えるとともに、新規出店者が増え、空き店舗がなくなりました。また、八百屋が2階を改装してカフェを開店するなど、商機（新しいビジネスチャンス）が生まれたことも挙げられます。

■コロナ禍でのまちづくり

新型コロナウイルス感染症の影響は門前通りでも大きいものでした。それでも、テイクアウトマップのアプリやチラシの作成・配布、複数の店舗が協力した商品開発などが話題となり、マスコミに取り上げられ、2020年夏以降は来客数も回復しています。地域の力の賜物です。

■まとめ

笠間稲荷門前通りの地域主体のまちづくり活動は地域が頑張った成果です。笠間市役所は、ずっと寄り添い、地域の主体性を重視し、サポートする立場でかかわってきました。活動資金についても、補助金獲得をサポートするなど、パートナーとして連携体制をつくり進めてきました。

笠間をはじめ全国の地域と関わっている経験から、地域主体のまちづくりには以下のようなことがポイントになると考えています。

①地域主体のまちづくりは、義務的ではなく、関わる人がメリットを見出し、進めていくことが必要。ボランタリーな活動は長続きしません。

②行政は、全域各地区ではなく、問題がある地区、やる気のある地区で推進すべき。

③進め方としては、会議だけではなく、早いうちから実践活動を組み合わせて、実践をしながらプランニングすることが有効。

④地域の主体性を重視し、行政は出てきた意見についてサポートしていくスタンスが重要。

地域ごとにまちづくりのテーマがあり、地域主体のまちづくりはオーダーメイドで進めていかなければなりません。ただ、きっとあなたのまちづくりに役立つと思いますので、是非、笠間稲荷門前通りへお越しください。